

福島県会津地域における小麦品種「しゅんよう」の特性

山田 英雄・服部 実・小森 秀雄*

(福島県農業試験場会津支場・*会津若松地域農業改良普及センター)

Agronomic Characteristics of the Wheat Variety 'Syunyou' in Aizu District of Fukushima Prefecture

Hideo YAMADA, Minoru HATTORI and Hideo KOMORI*

(Aizu Branch, Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station・
*Aizu Wakamatsu Regional Agricultural Extension Service Center)

1 はじめに

会津地域では「ワカマツコムギ」が主として栽培されてきた。「ワカマツコムギ」は耐雪性に優れた、強稈、多収の品種である。しかし、成熟期が6月6半旬から7月1半旬とやや遅く、収穫期が梅雨盛期と重なるために安定した品質の確保が困難であった。このため、「ワカマツコムギ」と同等の栽培特性を有し、さらにより早熟な良質品種の導入が求められていた。

これに対し、福島県では平成7年度に会津地域を対象とした小麦奨励品種として、「しゅんよう」を採用した。

「しゅんよう」は昭和53年度に長野県農事試験場において「東北148号」を母に、「東山10号」を父に交配・育成された品種である。現在、福島県のほか、山形、長野県の奨励品種になっている。

本報告は、会津地域における「しゅんよう」の栽培試験から、その生育並びに品質特性等について検討したものについて報告する。

2 試験方法

品種特性の解析は、麦類奨励品種決定調査を中心として、関連した一連の試験結果を用いた。

奨励品種決定調査は、福島県農業試験場会津支場内のほか、会津高田町及び塩川町に現地試験圃を設けて行った。これら試験の具体的な耕種法等は表1のとおりである。

また、耐雪性については福島県農業試験場冷害試験地に試験圃を設け、調査した。

グラベンター特性試験については阿部製粉株式会社に委託し、調査したが、テンパリングの目標水分は15%とし、粉色の測定は東京電色反射率計を用いた。

表1 耕種概要

播種法		条播 (畦幅70cm×株間15cm)	散播 (畦幅120cm)
播種期		10月6日	
播種量		0.6 (kg/a)	1.2 (kg/a)
施肥量 (kg/a)	基肥	N:0.6, P ₂ O ₅ :1.8, K ₂ O:1.6	N:1.2, P ₂ O ₅ :1.8, K ₂ O:1.2
	追肥	N:0.2	N:0.2
1区面積・区制		10m ²	3区制

3 試験結果及び考察

表2, 3に、「しゅんよう」と「ワカマツコムギ」の生育及び収量を示した。

「しゅんよう」の成熟期は「ワカマツコムギ」と比較し

表2 福島県農業試験場会津支場における試験成績

栽培法	品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒 伏 程 度	子実重 (kg/a)	リット ル 重 (g)	千粒重 (g)	外 観 品 質
条播	しゅんよう	5.9	6.22	85	9.0	431	0.5	46.6	773	40.9	2.4
	ワカマツコムギ	5.16	6.28	79	10.8	315	0	44.3	736	38.8	4.1
散播	しゅんよう	5.8	6.20	85	8.1	792	1.1	49.2	766	38.2	3.0
	ワカマツコムギ	5.14	6.24	79	10.3	576	0.1	55.4	740	38.3	3.9

注. 条播は1987~1994年(8カ年)の平均。散播は1988~1994年(7カ年)。

表3 福島県会津地域における現地試験成績

栽培法	試 験 地点名	品 種 名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒 伏 程 度	子実重 (kg/a)	同 対 標 比 (%)	外 観 品 質
条播	会 津 高田町	しゅんよう	5.10	6.22	86	8.2	801	0.5	63.7	122	2.3
		ワカマツコムギ	5.16	6.28	83	10.2	603	0.2	56.6	100	5.3
散播	塩川町	しゅんよう	5.13	6.25	74	8.4	531	0.2	45.2	90	2.3
		ワカマツコムギ	5.19	6.30	75	9.8	473	0	47.2	100	3.8

注. 播種法は散播で、1989~1994年(6カ年)の平均。

て4～6日早く、6月4～5半旬である。会津地域においては中生種に分類される。

稈長は「ワカマツコムギ」よりやや長く、穂長はやや短い。穂数は「ワカマツコムギ」より多い。

収量は「ワカマツコムギ」と比較して条播で105%、散播で89%で、同程度からやや少ない。千粒重は「ワカマツコムギ」と同程度からやや重い。外観品質は粒の充実が良好なことから9段階評価の3（上・下）で、「ワカマツコムギ」に優る。

耐倒伏性は極強の「ワカマツコムギ」に比較して、やや劣るものの「強」である。

表4に耐雪性に関する福島県農業試験場冷害試験地における調査結果を示した。1992年、1993年の根雪日数はそれぞれ98日、109日であった。越冬株率、雪腐病の発生程度は「ワカマツコムギ」に比べやや劣ったが、耐雪性は「やや強」と判定された。

表5 ブラベンダー・ジュニア・テストミル製粉による品質試験成績（福島県農業試験場会津支場）

品 種 名	製粉 歩留 (%)	A+B粉			フェリノグラム(50g)					アミログラム		
		灰分 (%)	粗蛋白 (%)	白度	Ab (%)	DT (分)	Stab (分)	Wk (BU)	VV	GT (℃)	MVT (℃)	MV (BU)
しゅんよう	52.6	0.39	8.0	85.2	57.8	1.7	4.2	113	40	61.0	91.5	1075
ワカマツコムギ	51.1	0.41	6.5	88.5	51.8	1.4	3.7	117	35	58.3	105.0	649

注. 1989～1994年（6カ年）の平均。

4 ま と め

「しゅんよう」は「ワカマツコムギ」に比べ、収量的には同程度からやや劣るものの、ほぼ同等の栽培特性を有する。また、「ワカマツコムギ」に比べ4～6日早熟であることから、梅雨の影響が小さく、より安定した品質の確保

表4 福島県農業試験場冷害試験地における耐雪性に関する試験成績

項 目 品種名	年次	積雪 日数	出芽数 (本/㎡)	越冬 株率 (%)	越冬 程度	雪腐病 の程度	判定 評価
しゅんよう	H 5	98	150	95	2	1.5	やや強
	H 6	109	150	20	3	3	やや強
ワカマツコムギ	H 5	98	120	90	1	1.0	強
	H 6	109	128	88	1	1	強

注. 耕種概要：播種量180粒/㎡ 密条播（条間30cm）
基肥 N：1.0 P₂O₅：1.0
K₂O：1.0（全層施肥）
追肥 なし

表5にブラベンダー特性試験の結果を示した。製粉歩留は「ワカマツコムギ」並からやや優る。粗蛋白含有率は「ワカマツコムギ」より高いものの8.0%程度で、製麺用としてはやや低い。アミログラムの最高粘度は900～1000 BUで「ワカマツコムギ」より高い。

が可能である。今後、「しゅんよう」の普及に伴い、福島県会津地域の小麦の品質向上が期待される。

しかし、粗蛋白含有率は「ワカマツコムギ」より高いものの8.0%程度で、製麺用としてはやや低い。このため、今後、品質向上の観点から粗蛋白含有率向上を目的とした栽培法の検討が必要と考えられる。